

アジェンダ21すいた エコレター 10月号

皆さんこんにちは。エコレター編集部です。

今年も夏が終わり、紅葉シーズンの到来ですね！

秋晴れ気持ち良いこの時期に自然・環境に触れあってみてはいかがでしょうか？

今月もよろしくお願いいたします！

もくじ

■すいたムーンライトコンサート	… 2
■すいたクールアースウィーク イベント ダウンライトカフェ&環境楽座	… 3
■北大阪水素ステーション見学会報告	… 4
■食品ロス月間	… 5
■関西大学図書館&里山デイキャンプ	… 6
■関西大学良永ゼミ本紹介	… 7
■各種募集・イベント案内	… 8



ムーンライトコンサート
WEB 配信ページ



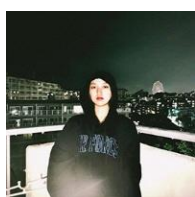
昨年度に引き続き、今年度も江坂公園でのすいたムーンライトコンサートを開催することができませんでした。かわりに、出演者募集にご応募いただきました方々の映像をWEB配信することにしました。配信期間は、すいたクールアースウィークスタートの9月18日から来年のクールアースウィークスタート直前までの予定です。すいたクールアースウィークは終わりましたが、ほっと一息つきたいとき、環境のこと考えてみようかなと思われたとき、ご都合の付くときに、ぜひ、ご鑑賞ください。以下、出演者の皆さま(50音順)です。



歌*種



Take-off



HWAMO



ふじわらの。



port of call



めろでい〜ぱれっと



Ringo

すいたムーンライトコンサートのポスター

CATグループ大阪アニメーションカレッジ専門学校の学生の方々に制作していただきました。選考の結果、最優秀であったタイからの留学生のアナンタシリチンダ ジランさんの作品がポスターになりました。学生の皆さま素晴らしい作品をありがとうございました。

ジランさんより「自分の作品が採用され、大変うれしいです。日本で実績を残せたことをすごく誇りに思います。」とコメントをいただいています。



10月14日(木)、CATグループ大阪アニメーションカレッジ専門学校へ伺い、表彰式を執り行いました。最優秀賞のジランさんは表彰されることに少し照れた様子でしたが、このデザインに至った経緯として、インターネットにて、日本語と英語とタイ語それぞれでデザインを研究され、そこからインスピレーションを受け、作成されたとお話いただきました。今回のデザインを完成されるまで、ご尽力いただいたこと、改めて感謝いたします。

地球温暖化防止フラッグシッププロジェクトチーム 池淵 佐知子

【ダウンライトカフェ】 主催：吹田市立健都ライブラリー 指定管理者 健都パークライフ創造パートナーズ

吹田市立健都ライブラリーのカフェで 9 月 18 日から 20 日までの 3 日間「ダウンライトカフェ」を開催しました。昨年 11 月に開館した施設ですが、カフェはライブラリーだけでなく健都レールサイド公園のご利用者様にも気軽にお立ち寄りいただいています。

期間中カフェ内の照度を落とし、スタッフ手作りの LED スタンドで飾り付けを行いました。短い期間でしたが、夕闇と共にカフェの様子が公園内に灯るあかりのように浮かびあがり、道行く人の目にとまり、多くの市民の皆様がクールアースの取り組みを知っていただく機会になりました。



【環境楽座】 主催：すいた市民環境会議

生物の多様性とは何か、なぜ多様性が大切なのだろう、そんなことを考える講座「すいたの生物多様性」を実施しました。神戸大学名誉教授の武田義明先生のお話です。

生物の多様性がなぜ必要かその価値とは何でしょうか。

1. 直接的価値: 木材供給, 医薬品, 燃料, 山菜など直接採集して利用する 供給サービス
2. 間接的価値: 気候調整, 水の浄化, 洪水調節機能などの調整サービスやリクレーション, 森林浴などの 保健機能
3. 予備的使用価値: 遺伝資源・生物模倣技術などの将来の潜在的な利用
4. 文化的価値: 芸術, 祭り, 教育, 文学など文化的基盤
5. 倫理的価値: 生物の存在そのものの価値

これらは人間にとっての価値です。

生物多様性の危機としては次の 4 点があげられます。

1. 人間活動や開発による危機
2. 人間活動の縮小による危機
3. 人間により持ち込まれたものによる危機
4. 温暖化による危機

吹田では自然環境の丘陵地、畑、水田の減少と河川のコンクリートでの護岸等によりいのち育む土が失われて生物多様性としては危機的な状態であると説明をされました。

【少しでも多くの人に「生物の多様性」ということを知って欲しい、そこから保全が始まる】と言われ、講座は終わりました。

そんな中、この吹田市内に絶滅したあるいは絶滅の危機にある植物が見つかりました。それらがどのような環境に生きているか後日観察会をしました。人が踏み込みにくい法面の草原など身近な環境です。この時期にアイナエという 1~2 ミリの小さな花、イヌセンブリやワレモコウの花など多くの草花を観察しました。様々な生物とさまざまな要素が絡まりあい保たれている多様性の網の目が一種の絶滅という穴が次々に大きくなり修復できない様子が目の前に浮かびました。



アイナエ



イヌセンブリ

北大阪水素ステーション見学会報告

7月6日(火)、エネルギー部会主催の大阪ガス(株)「北大阪水素ステーション」(茨木市宮島)の見学会に参加しました。当日は曇天の中、市役所に朝9時20分集合、エネルギー部会から7名、市役所環境部から3名、計10名の参加となり、車分乗で現地に向かいました。

現地では、本社の方含め6名が待ち受けてくださり、戴いたパンフレットを見ながら、説明を受けました。大阪ガス(株)の水素ステーション開発は、2001年より水素製造能力が 10m^3 /時間からスタートし、2007年には 100m^3 /時間、2016年には北大阪水素ステーションにて 300m^3 /時間の設備を稼動されておられます。現地設備としては、1)都市ガス改質・精製による高純度水素製造設備、2)圧縮・蓄圧設備、3)出荷設備(燃料電池車向け、ボンベ集荷用、車搭載ステーション向け等)から成っており、それぞれ、説明を受けました。



まず1)水素製造設備では、幅10m、奥行き3m、高さ3.5mのコンパクトな建屋の中に設置された脱硫器、改質器、一酸化炭素変成器、水素分離装置を見学しました。この装置内の圧力は、高圧ガス保安法の適用は受けない範囲(1MPa以下)で稼動しているとの事でした。次に2)圧縮・蓄圧設備では、0.6MPaから82MPaまで圧縮した後、蓄圧器に貯蔵する設備で、蓄圧器は円筒状でその肉厚は10cm程もあり、この製作に当たっては、戦艦「武蔵」の砲身製造技術が応用されているとの話には驚きました。これらの設備は、高圧ガスによる防災のため、厚いコンクリート障壁で分けられていました。最後に3)出荷設備では、本社から展示用に配車されたホンダ・クラリティ燃料電池車の水素容器に水素を充填する作業を見学しました。充填量は500km走行用として水素5kg(容量にして130L相当)とのことでした。また車には、燃料電池を通して得た電力を非常時用に役立つ可搬型外部給電気(9kVA、約100万円)を搭載しておりました。現状では燃料電池車の普及が低いため、一日の顧客は最大で10台/日のことでした。

今回、見学会に参加して、都市ガスから水素燃料電池利用までの流れがよく理解できました。また参加者は随所で活発に質問をされたこともあり、気がつくとい時間の見学も短く感じる状況でした。最後になりましたが、大阪ガス(株)様には、送迎、燃料電池車の手配、分かりやすい説明など、大変御世話になり、厚く感謝申し上げます。

エネルギー部会 中野 政男

“食べずに捨てるのはもう止めませんか？”

～食品ロスゼロを目指して～

「食品ロス削減推進法」が令和元年 10 月に施行され、10 月を「食品ロス削減月間」と定められたことを受け、啓発パネル展示を吹田市役所ロビー（10.1～10.7）と千里ニュータウンプラザ（10.22～10.30）の 2 箇所で巡回中です。

食品ロスとは、「まだ食べられるのに捨てられる食品」のことで、日本全国では約 600 万 t（平成 30 年推計、家庭系＋事業系）も捨てられており、これは国民一人が毎日、お茶碗 1 杯分のご飯を捨てているのと同じになります。



写真1 生ごみの中の手つかずの食品

写真 1 は「手つかずのまま捨てられた食品」で、捨てられたのは「傷んでいた」「賞味期限切れ」「消費期限切れ」などの為、冷蔵庫や保管庫で忘れられてしまったためと考えられます。しかし、捨てた理由のうち一番多いのは「食べ残し」ということが平成 29 年度の徳島県の調査でわかっています。それら 3 つの要因は注意すれば防げることばかりです。

スーパーやコンビニでは消費期限が迫っている「手前」から取る「てまえどり」を心がけましょう。この「てまえどり」は環境省も推奨しています。

また、アジェンダ 21 すいたでは吹田市と共に「すいた食べきり運動」を行っています。「すいた食べきり運動推進協力店」は吹田市内に現在 69 店舗あり、小盛りメニューや適量のご飯量を選択、また、残ったものの持ち帰りなどができる飲食店です。これらのお店を選んで飲食するのも食品ロスを削減する効果的な手段ですし、自分自身の食べきれる適量を知ることも大切です。

食品を捨てることは「お金を捨てること」であり、「食べ物の命を捨てる」ことでもあります。一人一人が「もったいない」を意識して行動すれば、食品ロスをゼロにできるのです。今から皆さんにできることは何ですか？



☆フードドライブを吹田市が実施☆

フードドライブとは、家庭で余っている食品を持ち寄り、まとめて子供食堂や福祉団体など、食品を必要としている人へ届ける活動です。

環境政策室では、令和2年度から、フードドライブを実施してきました。令和3年度は8月19日から9月2日の期間、吹田市役所、のびのび子育てプラザ、ラコルタの3か所で受付を行いました。市民だけでなく事業者からも提供があり、集まった食料は約273kgでした。

今後もお中元とお歳暮の終わる時期に実施する予定で、年2回のフードドライブを定着させたい考えです。



お米、レトルト食品、缶詰など

食品ロス削減フラッグシッププロジェクトチーム 水川 晶子

関大図書館×吹田市クールアースウィーク



関大図書館での展示の様子

現在、関西大学図書館では吹田市クールアースウィークの一環として KANDAI for SDGs 推進プロジェクトによる環境推進図書を中心に、17の目標を達成するきっかけとなる本やポスターの展示を行っています。今年も例年通り、関西大学図書館2Fにて展示されており、現時点でも学生を始めとして多くの方に利用していただいております。ほとんどが貸し出し中！になるほどの人気コーナーですので、皆さんも是非いち早く関西大学図書館に足を運んでみてください！

☆ここに注目だ ~帯で貸出率UP!??~

→より多くの方に気軽に本をとっていただき環境に興味を持っていただくために、帯紙に工夫がされています。その1つとして SDGsアイコンが記載されていることで、17のゴールの特徴やその内容までイメージしやすくなっています。是非実際にご覧になってみてください。

【良永ゼミ 井本】

里山デイキャンプ

ボランティアに参加してきました！

7月31日(土)に、小学生を対象とした、里山デイキャンプにボランティアとして参加してきました！

吹田市、豊中市、能勢町から元気いっぱいの子もたちが多く参加してくれました♪

当日はそれぞれの市に分かれ、芝滑りに虫取り、木工体験にペーパーサートなど色んな事に挑戦しました。普段あまり自然と触れ合える機会が少ない吹田市民の子もたちも、クイズやもの作り体験を通して環境について学ぶことができました。

私達学生も、子どもたちと一緒に一日を過ごしてみて、多くの学びや刺激を受けました。

素敵な夏休みの思い出が出来て光栄でした！

【良永ゼミ 井本、前田】



里山での活動の様子

～良永ゼミ本紹介～

アパレルゴミ班



『グリーンファッション入門 サステナブル社会を形成していくために』

著者:田中めぐみ

私たちの生活に彩りや楽しみを与えてくれるファッション。その背景には環境や社会に多大な影響を与えています。環境を犠牲にしている罪悪感から、衣類を購入しないというのは現実的ではないが、かと言って環境問題を無視してはなりません。本書では、環境を保護する為には環境と共存ができるファッションを作り、消費することで環境への負担を減らすのではないかとされています。また、衣類の素材から生産・販売方法、消費した後といった、すべての過程においてファッションをグリーン化するための思想や方法も紹介されています。

エコハウス班

『あなたの健康は家が決める』 著者:田中勇一

多くの人にとって住宅は、「人生最大」かつ「一生に一回」の買い物のはずです。しかし、多くの方は家づくりの経験がない初心者であるので、どこから取りかかるべきか、何を重要視するべきか分かりません。また、初心者のなかで、こだわる項目だけで住宅を手に入れた方の多くが、「住み心地」の部分で大きな不満を残し、後悔します。「住み心地」は住む人の健康を考える上でとても重要なファクターであり、「住み心地」を考慮しない家づくりは、健康を損なう不健康な家づくりである、ということが常識となる時代がすぐそこにきています。「住み心地」の良い家は、今や贅沢なことでもなく、私たちにとっての必需品になってきたといえます。健康的で省エネを実現する「住み心地」の良い家、知っていれば誰もが求めるはず。この本をきっかけに、これから住宅を検討する方が、より良い住環境を手に入れるお手伝いになることを願います。



ハチ班



『ハチはなぜ大量死したのか』 著者: ローワン・ジェイコフセン

私たちは、現在日本で起こっているミツバチの問題について着目しました。ミツバチの減少は近年著しく、その原因は多岐に渡ります。ですがこの問題はあまり認知されていません。さまざまな事例について調べながら、問題について学びを深めたいと思います。ハチが大量死した理由は、自然による影響だけなのか。実は人間の生活で起こっている問題と深く関係しています。この本では、様々な角度から問題を客観視して今後の状況経過について、話をしています。

各種募集・イベント案内



◇環境楽座◇

目の前で起きている気候危機はもう待たないです。自分ごととして、日々の暮らしの中でできる省エネや創エネの方法を知り、ひとりひとりが行動するために。次世代のためにできることを共に考えませんか？

本誌3ページに第1、2回「すいたの生物多様性」の講座と観察会の報告を掲載しています。第4回以降も参加者を随時受け付けています。

第4回 「知っておきたい炭とバイオエネルギー」（見学会）

◆とき／令和3年11月21日(日)12時30分～18時00分 ◆場所／南千里駅集合～高槻市田能

◆講師／島田 勇巳氏（高槻バイオチャーエネルギー研究所）

第5回 「海を守ろう！プラスチックごみの今」（ZOOM）

◆とき／令和3年12月12日(日)14時00分～16時00分 ◆場所／オンライン（Zoom） ◆講

師／原田 禎夫氏（NPO法人プロジェクト保津川代表）

第6回 令和4年1月29日(土)「福島発！再生可能エネルギーの今」（ZOOM）

◆とき／令和4年1月29日(土)14時00分～16時00分 ◆場所／オンライン（Zoom） ◆講師

／近藤 恵氏（二本松ご当地エネルギーをみんなで考える株式会社）

◆対象／小学校4年生以上の関心のある方ならどなたでも ◆定員／20名（第5回、第6回はオンライン

40名） ◆参加費／1講座500円（25歳以下は各回無料・第4回は交通費別途） ◆申込方法／第4回

は下記のメールか電話で。第5・6回は下記のメールかPeatixで。 ◆申込締切／第4回以外は前日まで

（第4回の見学会は11月4日締切）

主催：すいた市民環境会議 問合せ／事務局 TEL090-8375-0647 E-Mail k-kaigi@hotmail.co.jp

Peatix <https://peatix.com/user/9425873/view>



アジェンダ21 すいた会員募集

アジェンダ21すいたは、持続可能な社会を目指す市民、事業者、行政のパートナーシップ組織です。地球温暖化防止や食品ロス削減をはじめ、様々な取り組みを実践しています。あなたも一緒に活動しませんか。

入会希望の方は、アジェンダ21すいた事務局まで
【アジェンダ21すいた事務局】

〒564-8550

吹田市泉町1-3-40

吹田市役所環境部環境政策室内

TEL 06-6384-1782

FAX 06-6368-9900



アジェンダ21すいたHP

●編集後記

10月号のエコレター編集にも携わらせていただきました、良永ゼミです。代替わりをしてから3度目の編集ともなると、編集時間の短縮や構成を考えることに慣れ、手際よく作成できるようになりました。今回もダウンライトカフェや食品ロスなど、吹田市×環境で様々な興味深い内容の記事がならんでおり、編集しながらとても勉強になりました。このエコレターで、わたしたちが担当した関大図書館×吹田市クールアースウィークや里山デイキャンプの記事も交えながら、吹田市の取り組みや環境のことについて、さらに勉強していただければ幸いです。

【良永ゼミ 井本、松岡、前田】

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS